第一〇三回楽々俳句会(ちば)

令和六年一月十一日(木)　晴

会場　十時集合　投句三句(兼題　冬眠)　五句選

句会場：**活動さエンター**

久久久久久久久久久久久

2　冬眠の亀は次男と同居中　宣子
1 4 面影をそばに引き寄す賀状かな　洋子
2 1 万物の鼓動聞きつつ冬眠す　育子
1 2 鴨一羽同心円の波の跡　ミチ子
1 2 ふるさとの闇にくるまる夜寒かな　育子
3 八十のおしゃれ手編の冬帽子　宣子
3 切り口の美しきかな節料理　育子
1 はや三日嗚呼無残なり能登瓦　成子
青空にドローン見下す初詣　利太郎
白息やはーとふーとではは一温き　成子
1 3 広辞苑開くことなく冬眠す　成子
1 2 丸餅に都めぐらす雑煮碗　武彦
1 1 大地震輪島の猛火凍る夜　弘子
1　初富嶽太平洋の波の上　武彦
3 晴れた空新春ことほぎ軒雀　利太郎
3 朝の野に冬眠破る笛の音　豊隆
3 大晦日緞張下りて直ぐ上がる　久登
3 冬眠のけもの空ろに地震なり　静代
2 様々な言葉飛び交う初詣　粋歩
2 冬眠や庭の角ひとつ寝息立つ　今日子
2 冬眠の時欲し介護疲れかな　久登
2 餓え子熊冬眠の術知らぬまま　恵美子
1 大手町埋まる三日のテープかな　利太郎
1 夕焼の雁帰り行く寺の鐘　粋歩
1 冬眠の蛇揺り起す耕耘機　静代
1 愛犬や孫の玩具で冬眠る　洋子
1 一本の狭庭明るき冬のばら　ミチ子
1 賀状読む光陰のこの早きこと　信雄
1 新勝寺見つめる先に亀冬眠　洋子
1 冬眠の獣の如く一日過ごす　時過ぎぬ

枯蔓や土塀に残るピカソの絵
肥し場や蛙冬眠鶏に投げ　肥し場の冬眠蛙鶏に投げ
出数入りの五日の四股や地震鎮め
年の朝茜の空のありがたさ　ありがたき茜の空の年の朝
兼題に無い知恵絞る初句会　初句会兼題探す広辞苑
杉の杜初日こぼるる五色幕
静寂は刻や冬薔薇咲きてをり　静寂の中咲きてをリ冬薔薇
冬眠のりすどんな夢見てるかな
念のため文庫購ひ冬眠す　季語が判らない
まつ枯らす菰に籠りし時季をまつ
拳の手で暖とる朝の寒さかな　空腹の冬眠熊や目覚めたる
冬眠くま空腹めざめ途方くれ
新春の夢やいつしか繰られけり　年の夜ドリップ落ちる香かな
年の夜の闇しみ入るドリップ落つ　水仙の部屋いっぱいに匂たる
花なき冬に咲き匂う水仙よ

参加者　成子・洋子・育子・ミチ子・弘子・宣子・静代・今日子
利太郎・粋歩・豊隆・信雄・久登
園子　**投句**・恵美子・武彦

欠　席

予定

二月二十七日(火)中山法華経寺吟行　十時JR下総中山　京成中山十時二十分
句会場　昼食・菊寿司　十二時　句会十三時から十五時

三月十四日(木)　吟行なし　十時活動センター　兼題　浅蜊

令和五年　高得点者　高得点者には図書券を進呈した
二十九点　粋歩
二十八点　恵美子
二十四点　成子